

概要

清流であり、下流で希少生物が生息していること、また漁業も営まれていることから水処理に化成品を使用することも制限されました。

合わせて、濁水処理後に発生する沈殿物を河川内に残置させるという高いハードルもありましたが、安全性が高く、多くのデータで裏付けされたドロンパだからこそ施工できました。
ドロンパの高い環境性能から、濁水とドロンパの反応物（沈殿物）は河川の底質として残置しても問題ないとの行政判断を得ました。

その為、大型の機械式水処理プラントが一切不要となりました。

成果

	水温(°C)	PH	EC (mS/m)	濁度(度)
未処理	17.6	7.41	6.45	2,232
ドロンパ処理水	17.5	7.40	6.48	22

天然水処理材【ドロンパ】を使用した濁水・池水処理により、原水性状(pH・EC)を変化させずに濁度分のみを低減できました。

イオン化した金属成分や石油由来成分が混入しないため、沈殿物の再利用が可能です。

濁度だけではなく、窒素、リン、大腸菌などを除去できるなどプラスの側面もありました。



現場全景

吐出部近景



[排出箇所状況]

濁度 = 100程度・pH = 約7
EC = 5mS/m

[周囲状況]

ポンプ浚渫により浚渫した砂礫を上流および沈砂池に排出する際に濁水が発生する。



- ・シルトフェンス外への流出を防止。
- ・濁水とドロンパの反応物(沈殿物)は河川の底質として残置

濁度 = 10以下・pH = 約7
EC = 5mS/m

⇒ 発注者による継続水質モニタリングにおいても良好な結果であった。